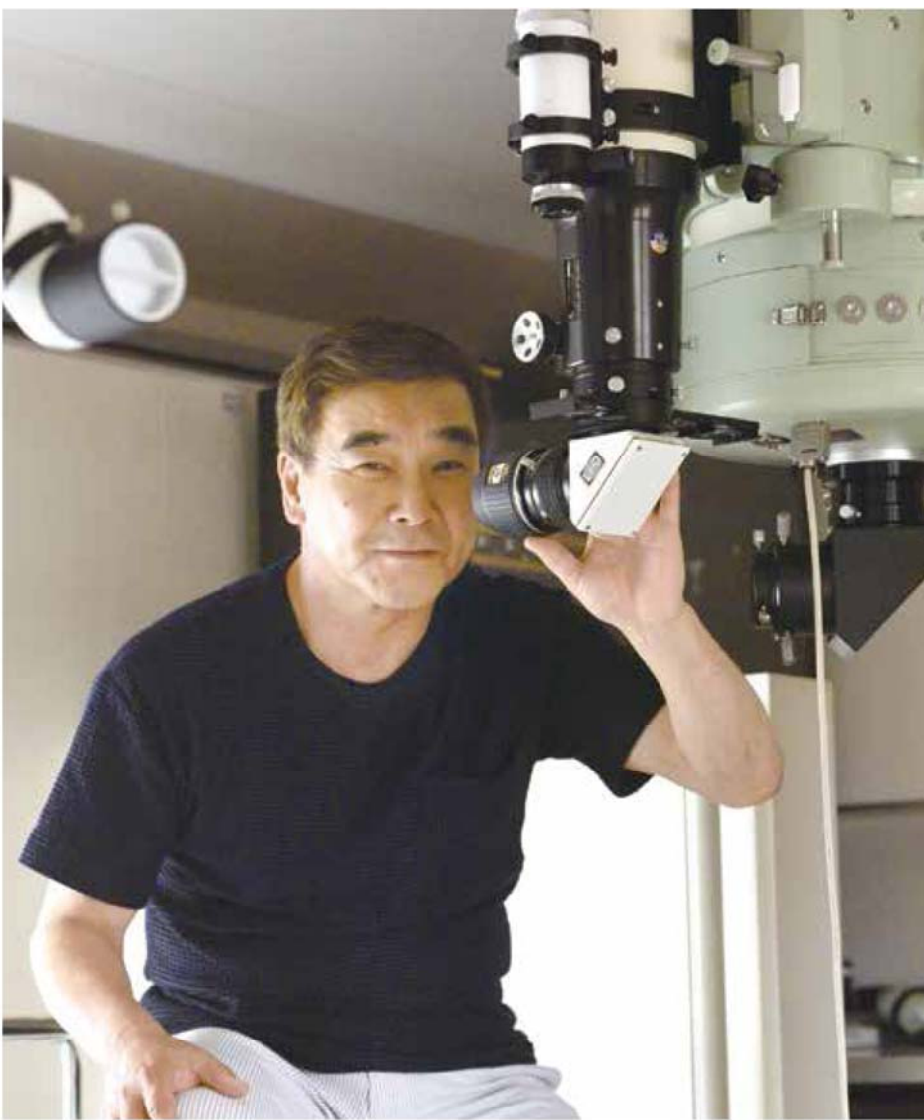


果てしなく広がる宇宙に魅せられて マイ観望室で星空を満喫

今回の訪問先は、兵庫県小野市で岡村医院を営む岡村龍一郎さんです。
先生が抱く天文への思いをご紹介します！



少年時代の夢は天文学者！
憧れの天体望遠鏡を手に

当院に増築した3階建てのスライディング
グループ付き観望室から天体観望を楽しんで
います。観望室は「龍星庵」と名付け、天
気のいい日は時間が経つのを忘れて天体望
遠鏡をのぞき込んでいます。今の季節(取
材時8月)なら、「夏の大三角」ですね。「は
くちょう座」の中で一番明るい星はしっぽ
にある「デネブ」ですが、くちばしにある
「アルビレオ」は、色の違う2つの星が寄り
添った二重星で宝石のように美しいんで
す。宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」に登場した
ことで、世界的に有名になったんですよ。

実は天体望遠鏡を手に入れることは、子
どものころからの夢でした。幼稚園のとき
に大阪に引っ越したのですが、当時は夜空
に天の川がきれいに見えてましたね。それか
ら天文に魅了され、小学生のころには天文
学者を目指していました。伝記や図鑑を読
みあさりましたが、欲しくてたまらなかつ
た望遠鏡は非常に高価で買えなかったた
め、カタログを見ては思いを募らせるばか
りでした。レンズだけ買って望遠鏡を作っ
たりしていましたね。しかし、中学・高校
と進学するにつれ、天文以上に医学に興味
を抱くようになり、医師の道へ進むこと
に。勤務医として忙しく過ごしてしまっ
たが、40歳で開業して時間に余裕ができたこ
とがきっかけで、約20年ぶりに天文への思
いが再びあふれ出し、ついに念願の天体望
遠鏡を手に入れました。

初めて買った天体望遠鏡は、口径15センチの屈折望遠鏡です。神戸市内の自宅と医院で移動観望を楽しんでいましたが、重いため組み立てるのに大変な思いをしていました。そこで、2005年の移転を機に、2階のベランダに据え置く口径35センチの反射望遠鏡を購入。しかし、雨ざらしのためカバーがすぐにボロボロになり、徐々に観望の機会が減っていきました。

どうしたものかと考えていたとき、医院の屋上から周囲を見渡すと景色が一変することに気づきました。天体観望に最適な視界の広さに感動し、思い切って『龍星庵』を増築したわけです。

美しい星雲に心酔 天体撮影も魅力の一つ

『龍星庵』が完成した2012年は、「金環日食」と、地球・金星・太陽が一直線になる「金星の日面通過」が見られました。金星の日面通過は、100年に一度起こるか起こらないかの珍しい天体現象で、当時とても話題になりましたね。前回、金星の日面通過が起こったのは明治時代で、日本で観測できたのが六甲山でした。それ以降、六甲山にある『諏訪山公園』は「金星台」と呼ばれるようになったという逸話があります。私は残念ながら診察時間のため長い時間は観望できませんでしたが、天体の動きに合わせて追跡する「赤道儀」を使って追尾しながら、写真撮影をしました。患者さんにも日食グラスを貸し出し、

世紀のイベントと一緒に楽しみました。

天体の中では、星雲・星団が一番好きです。ものすごくきれいなんです。やはり実際に自分の目で見ると感動が全然違いますね。星雲・星団は、有名な「メシエカタログ」で110、他のカタログでは1000以上ありますが、中でも秋は庄巻の「アンドロメダ大星雲」が見えるんですよ。惑星も感動しますね。特に引き込まれるのが土星です。土星の環の角度は、毎年だんだん変わっていくんです。今年は環がもっとも開いているので見やすいんですよ。

天体を見るのももちろん、撮影するのも好きです。いかに写真に残そうかと考えたり、撮った写真を合成して作品を作ったりと楽しみは尽きません。特に星雲はぼんやりとしているので、望遠鏡ではなかなかはっきり見えないんですよ。せっかくなのでカメラにもこだわって、天体撮影専用のデジタル一眼レフカメラをそろえました。通常のカメラだと赤い光はフィルターでカットされますが、専用カメラだときれいに撮れます。

写真の撮り方は、星仲間から教えてもらっています。「シャッタースピードを30〜60秒と長い時間をかけるのがいい」とアドバイスをもらいました。星仲間には、小野市内に「小川天文台」という個人天文台を持っていらっしゃる方や、丹波市で「谷川天文台」を所有、巨大望遠鏡で観望をされている方、国内でも有名な天文機器販売店の社長、ハイレベルのアマチュア写真家の方々など、天文のプロがたくさんいます。月に一回程度『龍星庵』で「星見会」を開

き、10〜20名ほどが集まって、天体の感想を言い合ったり、写真を撮ったりして楽しい観望の時間を過ごしています。昨年は、星仲間と一緒に香川県さぬき市にある「天体望遠鏡博物館」のオープンイベントにも行きました。

世界中の望遠鏡が勢ぞろい 「レフション」の中にはレア物も！

天体観望を続けていくうちに、望遠鏡の数も増えていき、今では10台以上あります。それぞれ見え方が違って良さがああります。お気に入りはいくつありますが、一つは約100年前にイギリスで作られた『BROADHURST CLARKSON』の望遠鏡です。現在は製造されていない貴重なものです。次は、手術用顕微鏡の有名メーカーであるドイツの『ZEISS』の望遠鏡。現在、望遠鏡は製造されていませんが、もともとレンズ光学の高い技術が根底にあるんですね。そのほか、NASAの依頼で開発されたアメリカの『QUESTAR』の望遠鏡もあります。これは、ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏と同じものです。色がきれいなので飾っておくのもいいんです。それにスライディンググリップなら、ドームと違って複数の架台が置けるので、いろんな天体望遠鏡をセットできますしね。

天体は本当に神秘的で、ストレス解消にもってこいです。家族にも勧めたいです。長い時間は付き合えないようです。確



数々のコレクションの一部



観望室の天井が大きく開き
夜空を一望できる

かに、天候に左右され、根気も必要なので強制はできませんが、このロマンチックな趣味を理解してもらうように努力しております。ここで診療を続ける限り、天体観望を楽しみたいですね。

岡村 龍一郎さん (おかむらりゅういちろう)

1952年京都府生まれ。77年鳥取大学医学部卒業。同第二外科に入局後、医学博士を取得。84年公立社病院（現加東市民病院）外科を経て、92年「岡村医院」を開院。05年に新設移転。一般社団法人小野市加東市医師会副会長を務める。95年に当組合に加入。